

令和 2 年度使用

小学校用教科用図書研究資料

算 数

宮崎県教育委員会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	<p>(1) 算数科の目標を達成するために、習熟度に応じた「ほじゅうのもんだい」や「たしかめよう」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。</p> <p>また、習熟に時間を要する内容や繰り返し学習することが有効な内容については、2つの単元に分けて段階的に取り扱うような単元の構成・配列の工夫がされている。</p>
4 大日本	<p>(1) 算数科の目標を達成するために、豊富な適用問題、習熟度に応じた単元末の「たしかめ問題」や巻末補充問題で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。</p> <p>また、児童が苦手としやすい単元を従来よりも後ろに配列したり、早い時期に配列して他教科で活用できるようにしたりするなど構成・配列の工夫がされている。</p>
11 学図	<p>(1) 算数科の目標を達成するために、各単元の終わりに設定された「できるようになったこと」「まなびをいかそう」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。</p> <p>また、割合など児童のつまずきやすい単元を2つに分け、もう一度学び直す機会を設定するなど構成・配列の工夫がされている。</p>
17 教出	<p>(1) 算数科の目標を達成するために、習熟度に応じた「ステップアップ算数」や「たしかめよう」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。</p> <p>また、既習事項を活用して学習内容の習熟を図ることができるよう、関連性のある単元を連続して学習できる構成・配列の工夫がされている。</p>
61 啓林館	<p>(1) 算数科の目標を達成するために、「じゅんび」「もっと練習」「わくわく算数ひろば」で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。</p> <p>また、「小数のかけ算・わり算」「割合」「割合のグラフ」のように、類似内容が複数の単元に分けられ、段階的に児童の理解を深めることができる構成・配列の工夫がされている。</p>
116 日文	<p>(1) 算数科の目標を達成するために、習熟度に応じた「たしかめポイント」「算数マイトライ」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。</p> <p>また、基本的な内容が多い低学年は関連のある単元を分散的に構成し、領域間で関連が深くなる高学年は関連する単元をまとめた構成・配列の工夫がされている。</p>

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、話し合いを促す問いかけや、学習内容を振り返る活動を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。</p> <p>(2) 学習内容の理解が確認できる「たしかめよう」を全単元設定し、自己評価や復習ができるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫がされている。</p> <p>(3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、問題解決の流れに即した思考や表現の過程が書かれたノート例を掲載するなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。</p>
4 大日本	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、多様な解決方法を言葉や図・式を使って複数の視点から示すなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。</p> <p>(2) 巻末補充問題「プラス・ワン」に全単元の内容を設定し、繰り返し練習ができるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫がされている。</p> <p>(3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、1年時からノートの書き方例を段階的に掲載し徐々に表現力も向上させるなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。</p>
11 学図	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、特に重要だと考えられる9つの見方・考え方をそれぞれのモンスターで表現するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。</p> <p>(2) 児童の思考に沿ったマークを掲載し、「確かめたいな」では、学習内容を確認できるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫がされている。</p> <p>(3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、考えや疑問を書くことで学習を深めることを目的とした「考えるノート」を掲載するなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。</p>

17 教出	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「はてな」「なるほど」「だったら」と児童の思考がつながる数学的活動を取り扱うなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。</p> <p>(2) 巻末に【学びのマップ】を掲載し、分からない箇所があれば自ら振り返って確認できるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫がされている。</p> <p>(3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、友達のノートによさを見つけることにより学級全体で表現力を高め合うようにするなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。</p>
61 啓林館	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、めあてをすべての時間に例示し、児童の主体的な考えや気づきを強調して取り扱うなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。</p> <p>(2) 巻末に「もっと練習」を設定し、易→難の2段階の問題により、習熟度別学習にも対応できるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫がされている。</p> <p>(3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、問題解決的な学習の流れを示し、その流れに沿ったノート例を掲載するなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。</p>
116 日文	<p>(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、多様な見方・考え方・解決方法の手がかりを示し、問題解決の見通しが立てられるようにするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。</p> <p>(2) 巻末に《算数マイトライ》を設定し、学習状況を確認したり、広げたり、深めたりできるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫がされている。</p> <p>(3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、考えた過程を図や式・ことばで表すとともに、友達の考えも書き示したノート例を掲載するなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 児童にとって分かりやすくするために、第2学年以降の一単位時間の終わりには「学習の振り返り」として児童の言葉を例示することで、学びに向かい続けようとする態度を育むことができるように配慮されている。
4 大日本	(1) 児童にとって分かりやすくするために、全学年において教科書を学年1冊にするとともに、単元名のインデックスを領域別カラーで表示することで、年間を通じて振り返りや学び直しがしやすくなるように配慮されている。
11 学図	(1) 児童にとって分かりやすくするために、第2学年以降の各単元の導入は、日常生活など身近な場面をストーリー性のあるイラスト形式で提示し、児童が自ら問題を見つけられるように配慮されている。
17 教出	(1) 児童にとって分かりやすくするために、第2学年以降の各単元のまとめとして4コマ漫画や穴埋めでまとめる場を設定し、児童が学んだことのよさや考え方を意欲的に振り返ることができるように配慮されている。
61 啓林館	(1) 児童にとって分かりやすくするために、全学年において教科書紙面のポイントとなる各所にQRコードを掲載し、学習の参考になる動画や補充問題等のコンテンツを授業や家庭学習で活用することができるように配慮されている。
116 日文	(1) 児童にとって分かりやすくするために、第2学年以降の巻末に問題解決の過程を示した「学び方ガイド」のシートをつけ、児童がどのような内容の学習でもシートを参照しながら見通しをもって問題を解決できるように配慮されている。

【データの観点】

種目 算数

※ 表内の数値は、算数で設定した内容項目により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的にとらえるのではなく、具体的な内容と合わせて各発行者の特徴をとらえる参考とすること。

視 点		発行者		2	4	11	17	61	116
		東書	大日本	学図	教出	啓林館	日文		
共通	① 総ページ			3 1 0	2 8 9	3 3 1	3 0 8	3 0 1	3 1 4
	② 重さ (グラム)	上		2 7 2	4 7 3	3 4 0	4 8 5	4 8 3	2 6 8
		下		2 6 2		3 6 8			2 8 3
通	③ サイズ	縦 (cm) × 横 (cm)		25. 8 ×18. 3	25. 7 ×18. 2	25. 7 ×21. 0	25. 7 ×18. 2	25. 7 ×18. 2	25. 7 ×18. 3
種別	④ プログラミング教育を取り入れた内容のページ数			上 1 下 1	2	2	2	2	3 + 4 (P) + 2
	⑤ 複数の見方や考え方、考える手順やヒントなどを吹き出し等で示した箇所数			7 8 6	3 3 5	3 2 9	4 5 5	4 5 6	3 9 5
	⑥ 単元構成以外で、練習問題や補充的な問題を掲載しているページ数			3 2	2 1	2 0	2 3	3 7	4 2
	⑦ 単元構成以外で、これまでの学習を生かした主体的・対話的で深い学びを意識した問題を掲載しているページ数			8	4	4	1 0	1 0	9
	⑧ A 数と計算	ページ数		8 0	7 2	8 6	7 4	8 0	7 3
		割合 (%)		25. 8	24. 9	30. 0	24. 0	26. 6	23. 2
	⑨ B 図形	ページ数		8 5	8 2	9 6	8 9	7 0	8 5
		割合 (%)		27. 4	28. 4	29. 0	28. 9	23. 3	27. 1
	⑩ C 変化と関係	ページ数		4 2	3 8	5 1	4 3	4 0	3 2
		割合 (%)		13. 5	13. 1	15. 4	14. 0	13. 3	10. 2
	⑪ D データの活用	ページ数		1 9	2 3	2 5	2 2	1 8	2 1
割合 (%)			6. 1	8. 0	7. 6	7. 1	6. 0	6. 7	

調査対象は、各発行者の5年生の教科書

- ① 総ページ数は、口絵や折り込みも含めた全体のページ数、上下巻に分冊のものは合計ページ数
- ④ プログラミング教育を取り入れた内容で、啓林館の+4 (P)は、特設ページ以外でプログラミング的思考を促すQRコードがついた箇所、日文の+2は巻末に「Scratch」を扱ったページを示している。